**第８９回観察会　2010年8月26日(木) 12:05～12:50　晴れ**

**テーマ『夏の昆虫の歩み―**

**アリとバッタと、時々、オサムシ―』**

**☆ガイドレポート**

夏といえば、昆虫採集の季節です。カブトムシ、クワガタ、セミなどの馴染みの深い昆虫が林内を賑わせています。しかし、森の中には他にも人目につかない多くの昆虫がいるのです。彼らは、飛ぶことやめ、夜の林床を落ち葉に隠れながら歩いて生活しています。文章にすると日陰者という印象になりますが、初夏の夜に森へ行き、足下を見ると、たくさんの彼らが活発に走り回っています。春から初夏にかけては、冬を乗り越えた彼らの繁殖の季節なのです。

この地表徘徊性昆虫の代表格が、オサムシという甲虫です。有名な昆虫ではありませんが、種内で地域ごとにサイズ、形態、色合いが異なり、古くから熱烈なマニアの収集対象となっています。かの有名な漫画家、手塚治虫もその一人で、ペンネームの「治虫」は「オサムシ」に由来するそうです。

どんな甲虫かというと、はっきり言って地味です。大きな角や顎があるわけでもなく、カラフルな体色をしている訳でもありません。しかし、僕個人としては、オサムシほどスタイルの良い昆虫はいないと思います。頭部、胸部、腹部のバランスとそれらが作り出すくびれ、長く逞しい脚、這いずるのではなく毅然とした立ち姿。地面を疾走することに特化した身体は、陸上競技の短距離走選手のような洗練された機能美があるのです。しっかりと展足されたオサムシ標本は芸術品です。

さて、今回の植物園観察会のガイドの依頼が来たとき、「季節的にほとんどいないけど、大丈夫かな？でも新成虫はいるかも・・・」と思い、引き受けました。地表徘徊性昆虫は、かなり素早く、また昼間はほとんど出てこないため、前日のうちに落とし穴トラップを植物園各所に仕掛けました。上手くいけば、観察会当日には、トラップの中からカサカサと昆虫の蠢く音が聞こえるはず、でした。結果はと言いますと、空のトラップばかりをお見せすることになり、せっかく参加していただいた皆様に退屈な思いをさせてしまったと思います。クロヤマアリは至る所で歩いていましたが、他のアリもほとんど見かけず、バッタもコオロギもいませんでした。しばらく雨が降らず、乾燥していたためかもしれません。それでもヤコンオサムシの新成虫1匹が採れました。オサムシがどのような昆虫であるかは、わかっていただけたと思います。

トラップによる採集は残念ながら空振りでしたが、新成虫のハンミョウはたくさんいました。この昆虫は、大変色彩鮮やかで裸地いるのですが、小さいうえに人が近づくと飛んで逃げます。そのため、やや前方の地面を見ていないと、その姿と捕らえることができません。観察会では全員がまとまって移動しましたので、先頭付近の方以外は見られなかったかもしれません。今にしてみれば、ハンミョウの観察会にすればよかったと思います。

京大植物園を考える会の観察会ということですので、地表徘徊性昆虫の研究から植物園の特徴と重要性についても触れておきたいと思います。まず、京都大学の植物園は、京都盆地にあります。すなわち、平地にあるのです。平地というのは人間にとって利用、開発し易い土地です。そのため、山間部と比較すれば明らかですが、平野部で自然が、平地の森林に適応した生物が生息できる環境が残されている場所というのは貴重です。次に、特に重要なこととして、歴史が古いということが挙げられます。地表徘徊性昆虫の多くは移動分散能力が低いので、環境が一度破壊され、そこの集団が絶滅すると、人間が元の環境を復元しても別の生息地から移入してきてはくれません。

今回見て頂いたヤコンオサムシは、関西地方に分布する平地適応したオサムシです。山間部、京都で言うなら比叡山の周辺では採集されません。おそらく大昔は、京都盆地には森林あるいは草原が広がっており、そこにヤコンオサムシは広く、比叡山の麓まで分布していたと思われます。そして現在は、京都盆地はほとんど人工物で覆われています。植物園のヤコンオサムシは、京都盆地に人間が街を造ったことで、取り残された集団である可能性があります。このような孤立した集団は、その種の誕生から分布拡大までの歴史を系統地理情報から紐解くうえで鍵となる存在なのです。

地表徘徊性昆虫は人目に付かない、言い換えると、大きく動き回らないからこそ、その存在と生息地が貴重なものであるのです。

最後になりますが、残暑厳しい中、参加して頂きました皆さん、京大植物園を考える会の方々、ガイドする機会を与えてくださいまして、ありがとうございました。今度は6月ごろにやりたいですね。

案内人：奥崎穣さん（京都大学理学研究科動物生態学）

**☆参加者の感想**

* 虫はあまり見つけられなかったけれど、かわった植物を見られておもしろかった。はんみょうは見つけられず残念。
（参加２～５回、６１才以上、女性、京大近辺のかた）
* 木々の影の中へ、蝉の声、法師蝉と○○○つくしを聴きながら、樹木に下っている名札の学名、薮茗荷の白い小ささが可愛く等々、よい時間でした。
（初めての参加、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* ナラ枯れの実態を初めて知り危機感を抱きました。オサムシを初めて拝見しました。（普段気付かないかも）ありがとうございました。楽しかったです。
（初めての参加、６０才以上、男性、京都市内のかた）
* オサムシを初めて見ました。かなり地味ですね。ハンミョウ、、、見られなくて残念！またの機会に。
（初めての参加、３１～６０才、女性、京都市内）
* こんなところに森があり驚きました、慣れていないので虫はあまりかんさつできませんでしたが、オサムシはじっくり見られました。お世話になりました。
（初めての参加、３１～６０才、女性、京都市外のかた）
* 「ナラ枯れ」について、詳しく説明していただき、有難うございました。今後も植物園内での異変についての話をしていただければと思います。
（参加１１回以上、６１才以上、男性、京都市外のかた）
* ハンミョウのきれいなのが見られてよかった。観察するまでの手間が大変だろうと思った。カシナガの被害をあちこちで見て、何か対策できないのかと思った。
（参加１１回以上、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* この暑さでは虫もいやになるでしょうね。あんまり見られなくて残念でした。ナラ枯れとても心配です。これからどうするのか、見守りたいです。大文字山や瓜生山、西山の方のナラ枯れも心配です。
（参加１１回以上、女性、京都市内のかた）
* 蚊取線香を持ってくればよかった。問い合わせをe-mailでしましたが御返事が無く一寸困った。初参加でこんなジャングルが京大の中にあるとは思いませんでした。有難う御在ました。
（初めての参加、３１～６０才、京都市外のかた）
* オサムシ初めてみました。手塚治虫、これから名前をもらったのですね。きれいな虫だと思いました。また機会があれば参加したいです。
（初めての参加、３１～６０才、女性、京都市外のかた）
* 家の庭で見かける虫がオサムシだったのか。これからは名前を呼んであげよう。ナラ枯れは“ショック″だけど、虫の生命力にもおどろく。
（参加１１回以上、６１歳以上、女性、京大近辺のかた）
* 今日は非常に勉強になりました。ダンゴムシ、ミミズ、アリetc.の土壌昆虫についても興味が出ました。もう少し時間が長かったらよかったです。
（初めての参加、１８～６０才、男性、京都市外のかた）
* 虫が少なくて残念だった。オサムシがテーマならよく見られるという、５、６月にやってほしかったです。
（参加１１回以上、３１～６０才、女性、京都市内のかた）
* 初めて参加させて頂きました。ハンミョウと聞くのは初めてでしたが、たしかに、あちこちにいた気がします。短い時間でしたが楽しかったです。
（初めての参加、６１才以上、女性、京都市内のかた）
* 目をこらすと、どんどん生き物が発見できるのが楽しかったです。ありがとうございました。
（初めての参加、３１～６０才、女性、京都市外のかた）
* ハンミョウが美しかった。
（初めての参加、３１～６０才、男性、京都市内のかた）
* 大きな声での説明、よくわかりました。
（６１才以上、京大近辺のかた）
* オサムシ、ハンミョウ、これから少し関心もってみます。
（初めての参加）
* やぶ蚊にさされ、ガイドさんの声はきこえず、自分は甘かったです。
（初めての参加、女性、京都市外のかた）
* ナラ枯れが気になりました。オサムシもよく見れば綺麗ですね。
（参加６～１０回、１８～３０才、男性、京都市内のかた）